

一致協力

～令和8年(2026年)年頭所感～



一般社団法人
日本自動車部品協会
(JAPPA)
理事長

青木 乙彦

優良部品の安定供給で社会貢献
一体感をもって飛躍の年に

令和8年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。
会員各社ならびに関係省庁、関係団体の皆様には平素より日本自動車部品協会の活動に格別のご支援とご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、世界情勢は

依然として不安定な状況が続いており、米国の関税政策の各国への影響、長引くロシアとウクライナ情勢、緊張が続く中東情勢など、保護主義および分断化の拡大が世界経済に影響を及ぼし、不確実性の長期化が懸念されております。

こうした中、国内においては昨年10月、

新政権がスタートいたしました。日本の憲政史上、初となる女性の内閣総理大臣の誕生は、時代が大きく変革していることあらわれである、と受け止めております。

政治の変化は社会や経済の動きに直結いたします。日本の経済は物価上昇による消費マインドの低下が見られるものの、総じて緩やかながら回復基調を維持しておりますが、高市政権の経済対策が日本の国際競争力を高め、成長をさらに押し上げることが期待したいと存じます。

アフターマーケット業界に目を転じますと、国内外ともに堅調な需要に支えられ、安定的に推移した1年であったと存じます。国内、海外両方で部品展示会が活発に行われ、部品メーカー、商社、部品商様で協力しあって、一体感を感じた1年でもありました。

自動車産業は依然として日本の基幹産業でございますが、それを取り巻く環境は非常に厳しい状況にございます。新たなモデルリテイに対応すべく、特に部品メーカー様は大変ご苦労されていると存じます。

日本の自動車部品は、安全走行に無くてはならないものとして非常に信頼が高く、世界中からたくさんのお客様があり、優良

部品の価値が世界的に高まっていると感じます。自動車の構造が変わっても、また変わるからこそ、その安全を保ち、支えることの重要性は増すばかりです。
ユーザーの利便性を高め、安心・安全な生活を支えるという社会貢献が、製販一体となって出来ており、世界で我々の存在が必要とされていると強く感じます。

一方で、自動車の産業構造そのものが大きく変わりつつあり、課題も山積しております。人手不足、物流問題、デジタル化、商流の変化等々、課題をあげるとキリがありません。

なかでも人手不足が深刻ですが、これは少子高齢化が進んでいるため、我々の業界だけではなく、どの業界も同じです。なかなかプラスチックを重ねることは難しいですが、いやだと思ふこと、マイナス要因をひとつでも減らしていくことが大事ではないかと思ひます。例えばきれいな言葉づかいで相手に接する、こちらから寄り添ってコミュニケーションを図る、という姿勢を意識するだけでも、ずいぶん変わってくるのではないのでしょうか。

こうした課題や悩みを共有して、必要な情報のやり取りをスムーズに行えるよう、

日頃から業界内でのコミュニケーションを密にしておくことが大事です。活発に情報交流を図り解決策を探る、または連携して対応にあたるということが重要になってまいります。

メーカー、商社、そして世界の動きをつないでアフターマーケットを支えるのが我々の使命でございます。変化は非常に速いですが、協力すれば必ず乗り越えられます。日本のカーメーカー、部品メーカーの素晴らしいモノづくりがあるからこそ、我々のビジネスも成り立ち、社会貢献も出てまいります。日本の自動車をもっと活用できる社会に、安心・安全・快適を長く届けられる業界にしていけば、まだまだ発展していくでしょう。

今年は60年に一度の丙午(ひのえうま)の年です。情熱や勢い、気力が高まるパワフルな年だそうです。大きな飛躍のチャンスととらえ、これからも会員同士、力を合わせて頑張っていきたいと存じますので、本年も変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう、ますますのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。